都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：令和４年第Ⅰ四半期（１～３月）

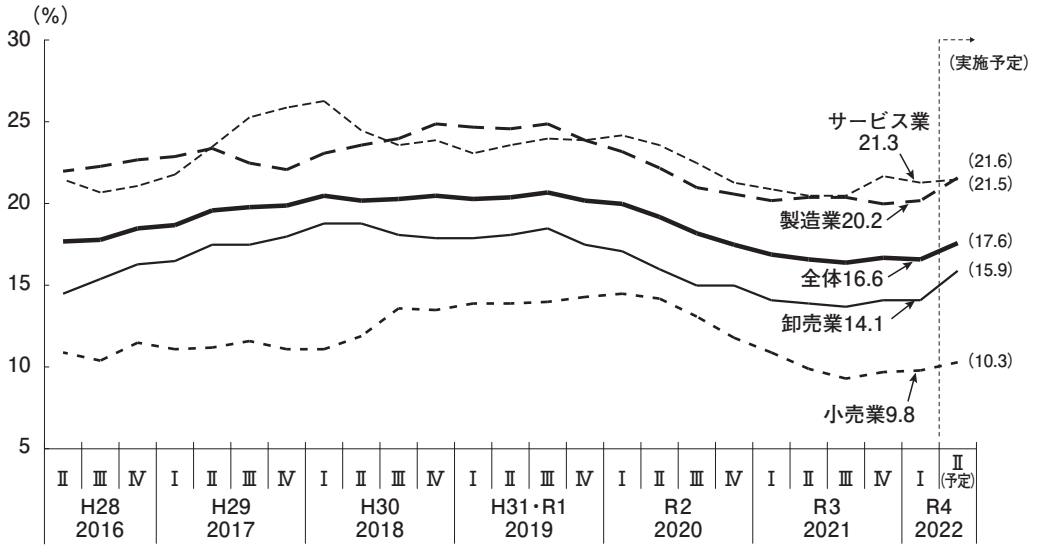
設備投資：横ばいで推移　資金繰り：やや悪化
採算状況：悪化に転じる　雇用人員：横ばいで推移

■設備投資■

設備投資の動向を後方４四半期移動平均でみると、当期（令和４年１～３月）に設備投資を「実施した」割合は全体では16.6％となり、前期（令和３年10～12月）の16.7％から横ばいで推移した。

業種別にみると、設備投資を「実施した」割合は卸売業14.1％（前期14.1％）と小売業9.8％（同9.7％）がともに横ばいで推移した。製造業20.2％（同20.0％）はわずかに上昇した。サービス業21.3％（同21.7％）はわずかに低下した。

図表１　設備投資の実施割合の推移　－後方４四半期移動平均－



注）来期「実施予定」割合（後方４四半期移動平均）は、後方３四半期実績と来期予定の平均。

来期（令和４年４～６月）の設備投資の「実施予定」割合（後方４四半期移動平均）は全体では17.6％となり、当期と比べて大きく上昇する見通しとなった。

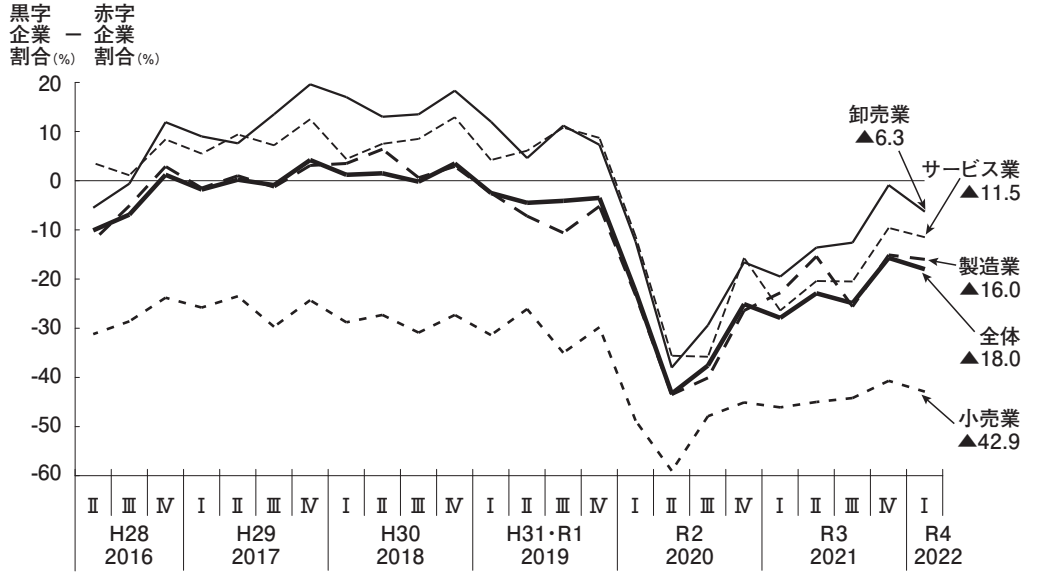
業種別にみると、当期と比べて製造業21.6％、卸売業15.9％はともに大きく上昇し、小売業10.3％はやや上昇、サービス業21.5％はわずかに上昇する見通しとなった。

■採算状況■

当期の採算状況を「黒字」とした企業割合－「赤字」とした企業割合でみると、全体では▲18.0（前期▲15.7）となり、悪化に転じた。

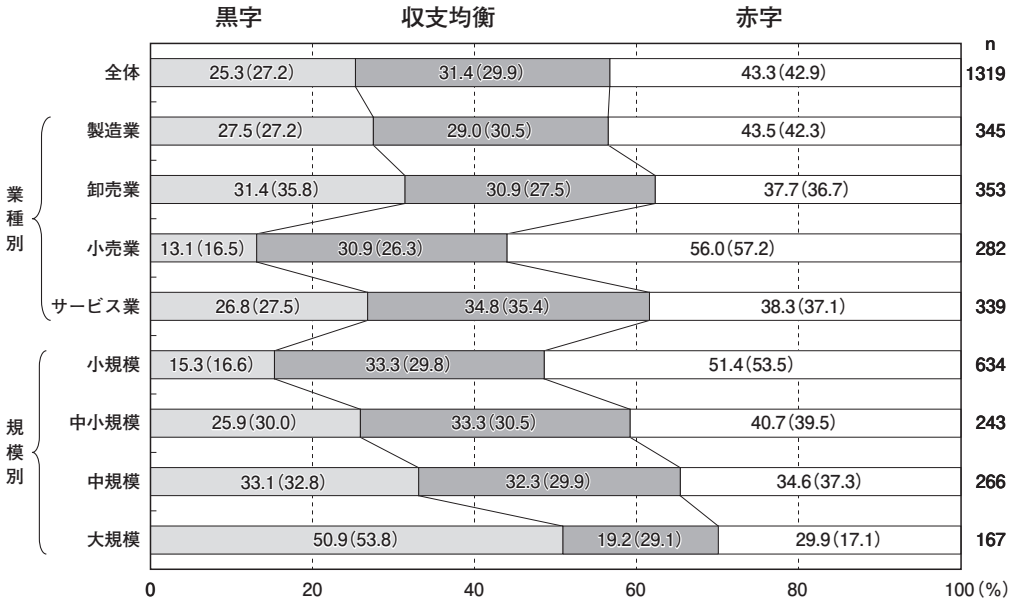
業種別にみると、卸売業▲6.3（同▲0.9）は5.4ポイント減少し悪化した。小売業▲42.9（同▲40.7）は2.2ポイント減少、サービス業▲11.5（同▲9.6）は1.9ポイント減少しともにやや悪化した。製造業▲16.0（同▲15.1）は0.9ポイント減少しわずかに悪化した。

図表２　採算状況の推移



規模別にみると、小規模では黒字が15.3%（同16.6%）であるのに対し大規模では黒字が50.9%（同53.8%）を占める。

図表３　採算状況（業種別･規模別）



注）規模別は規模不明を除く。（　）内は前期（令和３年10～12月）の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

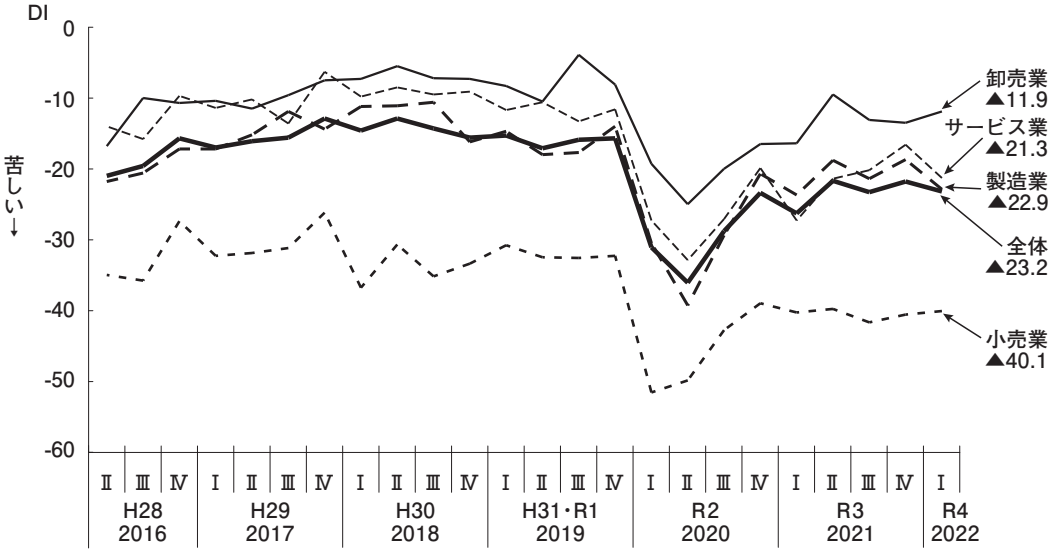
■資金繰り■

当期の資金繰り状況を資金繰りDI(「楽」－「苦しい」)でみると、全体では▲23.2(前期▲21.8)と1.4ポイント減少しやや悪化した。

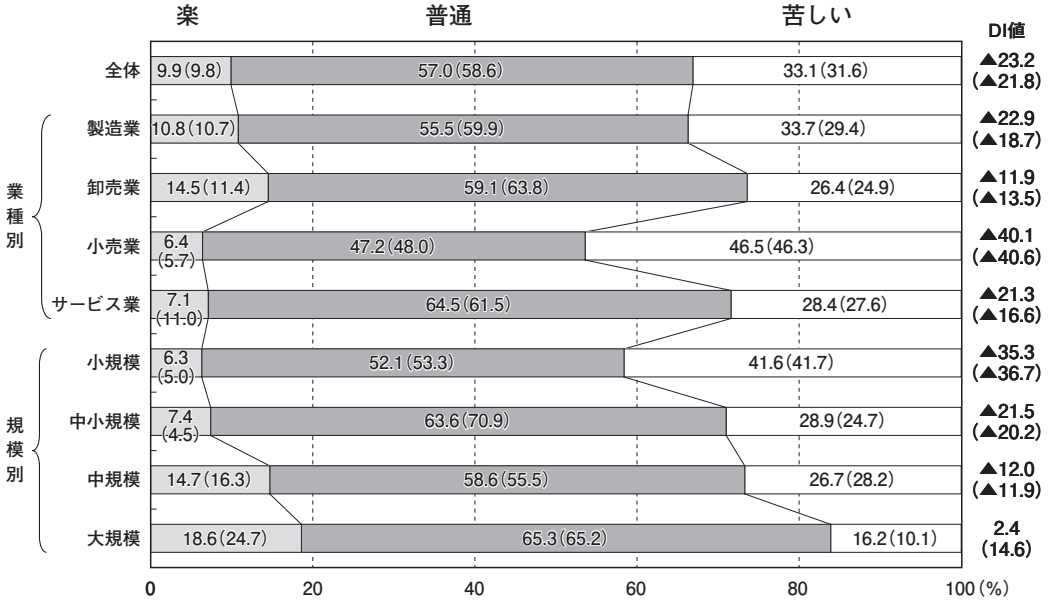
業種別にDI値をみると、製造業▲22.9(同▲18.7)は4.2ポイント減少、サービス業▲21.3(同▲16.6)は4.7ポイント減少しともに悪化した。卸売業▲11.9(同▲13.5)は1.6ポイント増加しやや改善、小売業▲40.1(同▲40.6)は横ばいで推移した。

規模別にDI値をみると、大規模2.4(同14.6)は12.2ポイント減少し大幅に悪化した。

図表４　資金繰りDIの推移



図表５　資金繰り状況（業種別･規模別）

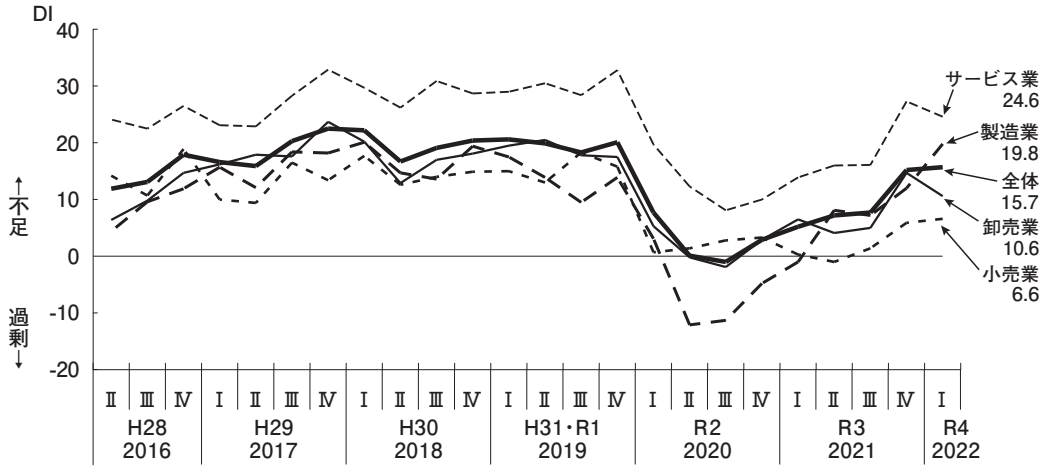


注）規模別は規模不明を除く。（　）内は前期（令和３年10～12月）の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

■雇用人員■

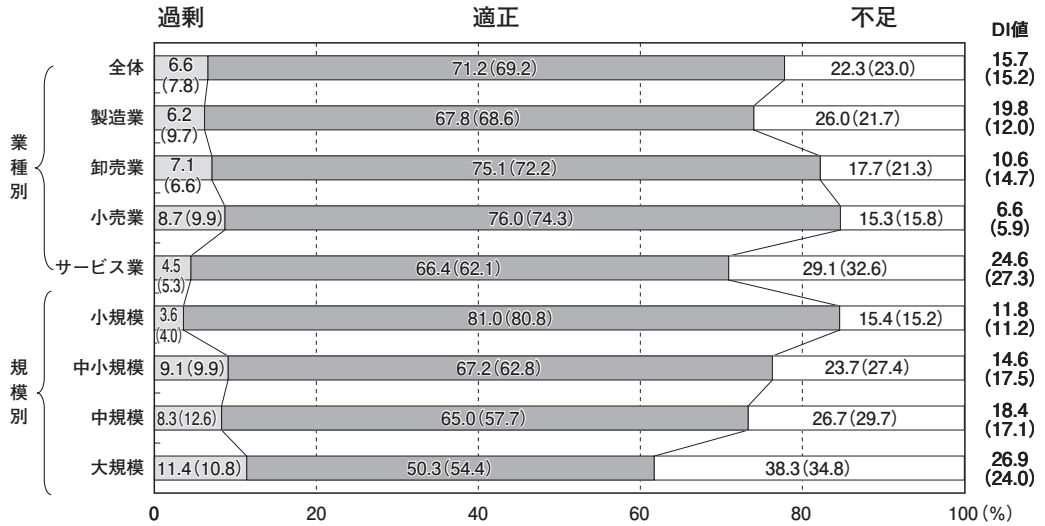
当期の雇用状況を雇用人員DI(「不足」－「過剰」)でみると、全体では15.7(前期15.2)となり、横ばいで推移した。

図表６　雇用人員 DI の推移



規模別にDI値をみると、規模が大きくなるほどDI値が高くなり、大規模は26.9(同24.0)となった。

図表７　雇用人員の状況（業種別･規模別）



注）規模別は規模不明を除く。（　）内は前期（令和３年10～12月）の数値。
　　四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。